

金沢大学入試問題2004

1 [2004 金沢大]

座標平面上の曲線 $C: y=|x^2-1|$ と傾き a の直線 $l: y=a(x+1)$ が異なる3点で交わっているとする。

- (1) a のとりうる値の範囲を求めよ。
- (2) C と l で囲まれた2つの図形の面積の和 S を a を用いて表せ。
- (3) S が最小になる a の値を求めよ。

(1) C と l はともに点 $(-1, 0)$ を通る。

また、 $a=2$ のとき、 l は $y=-(x^2-1)$ と点 $(-1, 0)$ で接する。

よって、 C と l が異なる3点で交わるような a の値の範囲は $0 < a < 2$

(2) 図のように面積 S_1, S_2, S_3 を定める。

$$S_1 = \int_{-1}^{1-a} \{-x^2 + 1 - a(x+1)\} dx$$

$$= -\int_{-1}^{1-a} (x+1)(x-1+a) dx$$

$$= -\frac{-1}{6} \{(1-a) - (-1)\}^3 = \frac{1}{6}(2-a)^3$$

$$S_2 = \int_{1-a}^1 \{a(x+1) - (-x^2+1)\} dx$$

$$= \int_{1-a}^1 (x+1)(x-1+a) dx$$

$$= \int_{1-a}^1 \{(x-1+a)^2 + (2-a)(x-1+a)\} dx = \left[\frac{1}{3}(x-1+a)^3 + \frac{2-a}{2}(x-1+a)^2 \right]_{1-a}^1$$

$$= \frac{1}{3}a^3 + \frac{1}{2}(2-a)a^2$$

$$S_3 = \int_1^{1+a} \{a(x+1) - (x^2-1)\} dx = -\int_1^{1+a} (x+1)(x-1-a) dx$$

$$= -\int_1^{1+a} \{(x-1-a)^2 + (2+a)(x-1-a)\} dx$$

$$= -\left[\frac{1}{3}(x-1-a)^3 + \frac{2+a}{2}(x-1-a)^2 \right]_1^{1+a}$$

$$= -\frac{1}{3}a^3 + \frac{1}{2}(2+a)a^2$$

ゆえに

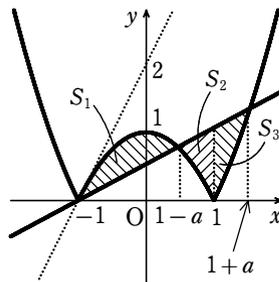
$$S = S_1 + S_2 + S_3 = \frac{1}{6}(2-a)^3 + \frac{1}{2}(2-a)a^2 + \frac{1}{2}(2+a)a^2 = -\frac{1}{6}a^3 + 3a^2 - 2a + \frac{4}{3}$$

(3) (2) の結果から $\frac{dS}{da} = -\frac{1}{2}a^2 + 6a - 2$ ($0 < a < 2$)

したがって、 S の増減表は次のようになる。

a	0	...	$6-4\sqrt{2}$...	2
$\frac{dS}{da}$		-	0	+	
S		↘	極小	↗	

S が最小になる a の値は $a=6-4\sqrt{2}$



2 [2004 金沢大]

複素数 z に対し、 $w=iz^2$ とおく。ただし、 i は虚数単位である。

- (1) $z=a(\cos\theta + i\sin\theta)$ (a は正の実数) において、 θ が $0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ の範囲を動くとき、 w が描く図形を複素数平面上に図示せよ。
- (2) $z=x+iy$ (x, y は実数) が直線 $x=1$ 上を動くとき、 w が描く図形を複素数平面上に図示せよ。
- (3) $z=x+iy$ (x, y は実数) において、 x, y が $0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1, x^2+y^2 \geq 1$ を満たしながら動くとき、 w が動く範囲を複素数平面上に図示せよ。

$w=p+qi$ (p, q は実数) とおく。

(1) $w=iz^2, z=a(\cos\theta + i\sin\theta)$ から

$$p+qi = ia^2(\cos 2\theta + i\sin 2\theta)$$

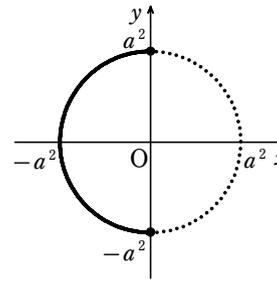
$$= -a^2\sin 2\theta + ia^2\cos 2\theta$$

$$= a^2\{\cos(2\theta+90^\circ) + i\sin(2\theta+90^\circ)\} \dots\dots ①$$

ここで $0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ から

$$90^\circ \leq 2\theta+90^\circ \leq 270^\circ$$

図示すると右図のようになる。



(2) $w=iz^2, z=x+iy$ から

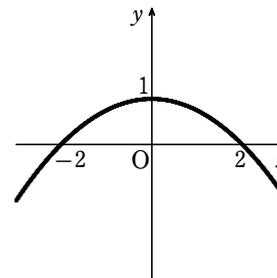
$$p+qi = i(x+iy)^2 = -2xy + i(x^2-y^2)$$

$$\text{よって } p = -2xy, q = x^2 - y^2 \dots\dots ②$$

$$x=1 \text{ とすると } p = -2y, q = 1 - y^2$$

$$y \text{ を消去して } q = -\frac{p^2}{4} + 1$$

図示すると右図のようになる。



(3) $x^2+y^2 \geq 1, x \geq 0, y \geq 0$ は、(1) において $a^2 \geq 1$ かつ $0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ と同値である。

$$\text{ゆえに、} ① \text{ から } |w| \geq 1 \text{ かつ } 90^\circ \leq \arg w \leq 270^\circ \dots\dots ③$$

また、 $0 \leq x \leq 1$ となる条件を求める。

[1] $x=0$ のとき、 $0 \leq y \leq 1$ となる条件は、② から $p=0, -1 \leq q \leq 0$

[2] $x \neq 0$ のとき

② から $p^2 = 4x^2y^2, q = x^2 - y^2$

$$y \text{ を消去して } p^2 = 4x^2(x^2 - q)$$

$$\text{よって } 4x^4 - 4qx^2 - p^2 = 0$$

これが $0 < x \leq 1$ となる解をもてばよい。

$$t = x^2 \text{ とすると } 4t^2 - 4qt - p^2 = 0$$

$$f(t) = 4t^2 - 4qt - p^2 \text{ とする。}$$

方程式 $f(t) = 0$ が $0 < t \leq 1$ となる解をもてばよい。

$f(0) = -p^2 \leq 0$ であるから、図より、求める条件は

$$f(1) \geq 0$$

$$\text{すなわち } 4 - 4q - p^2 \geq 0$$

$$\text{よって } q \leq -\frac{p^2}{4} + 1$$

これを満たす p, q について、実数 x, y ($0 < x \leq 1$) がただ1つ存在する。

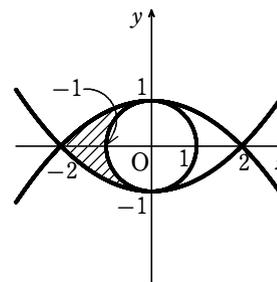
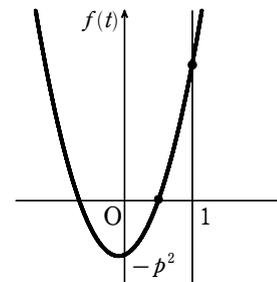
[1], [2] を合わせて $q \leq -\frac{p^2}{4} + 1 \dots\dots ④$

また、 $0 \leq y \leq 1$ となる条件についても同様にして

$$q \geq \frac{p^2}{4} - 1 \dots\dots ⑤$$

よって、 w の動く範囲は③、④、⑤の表す領域の共通部分である。

図示すると右図のようになる。ただし、境界線を含む。



金沢大学入試問題2004

3 [2004 金沢大]

複素数平面上で中心が1, 半径1の円をCとする. 以下, i は虚数単位とする.

(1) C上の点 $z=1+\cos t+i\sin t$ ($-180^\circ < t < 180^\circ$) について, z の絶対値および偏角を t を用いて表せ. また, $\frac{1}{z^2}$ を極形式で表せ.

(2) z が円C上の0でない点を動くとき, $w=\frac{2i}{z^2}$ は複素数平面上で放物線を描くことを示し, この放物線を図示せよ.

$$\begin{aligned} (1) \quad z &= 1 + \cos t + i\sin t = 2\cos^2 \frac{t}{2} + 2i\sin \frac{t}{2} \cos \frac{t}{2} \\ &= 2\cos \frac{t}{2} \left(\cos \frac{t}{2} + i\sin \frac{t}{2} \right) \end{aligned}$$

ここで, $-90^\circ < \frac{t}{2} < 90^\circ$ であるから $\cos \frac{t}{2} > 0$

したがって, z の絶対値は $2\cos \frac{t}{2}$, 偏角は $\frac{t}{2}$

$$\text{また } z^2 = 4\cos^2 \frac{t}{2} \left(\cos \frac{t}{2} + i\sin \frac{t}{2} \right)^2 = 2(1+\cos t)(\cos t + i\sin t)$$

$$\text{したがって } \frac{1}{z^2} = \frac{1}{2(1+\cos t)} \{ \cos(-t) + i\sin(-t) \} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

(2) $w = \frac{2i}{z^2} = x + yi$ (x, y は実数)とおくと, $\textcircled{1}$ から

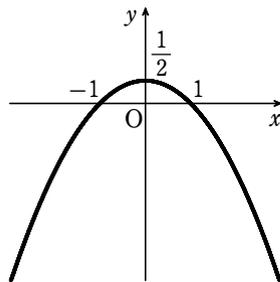
$$\begin{aligned} x + yi &= \frac{i}{1+\cos t} (\cos t - i\sin t) \\ &= \frac{1}{1+\cos t} (\sin t + i\cos t) \end{aligned}$$

$$\text{したがって } x = \frac{\sin t}{1+\cos t}, \quad y = \frac{\cos t}{1+\cos t}$$

$$\begin{aligned} \text{よって } x^2 &= \frac{\sin^2 t}{(1+\cos t)^2} = \frac{1-\cos^2 t}{(1+\cos t)^2} = \frac{1-\cos t}{1+\cos t} \\ &= 1 - \frac{2\cos t}{1+\cos t} = 1 - 2y \end{aligned}$$

ゆえに, w は複素数平面上で放物線 $y = -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}$

を描く. 図示すると右図のようになる.



4 [2004 金沢大]

座標平面上で動点Pが, x 軸の正の方向へ1進むことを文字aで表し, y 軸の正の方向へ1進むことを文字bで表し, 停留することを文字cで表す. a, b, cからなる文字列が与えられたとき, 点Pは原点を出発し, その文字列に従って移動する. たとえば, 長さ4の文字列acabに対しては, 点Pは原点(0, 0)から出発して, (1, 0), (1, 0), (2, 0), (2, 1)と移動し, 点(2, 1)が到達点となる.

(1) n を自然数とする. 長さ n の文字列の中で, 点Pの到達点の x 座標と y 座標の和が n となる文字列は何個あるか.

(2) k, n を自然数とし, $1 \leq k \leq n$ とする. 長さ n の文字列の中で, 点Pの到達点の x 座標と y 座標の和が k となる文字列の個数を $F_n(k)$ とする. $F_n(k)$ を k と n を用いて表せ.

(3) 自然数 n が与えられたとき, $F_n(k)$ が最大になる自然数 k の値を求めよ.

(1) 点Pの到達点の x 座標と y 座標の和が n となる文字列は, aとbを合わせて n 個並べた順列である.

よって, 求める文字列の個数は2個の文字a, bから n 個を取り出す重複順列の個数に等しいから 2^n 個

(2) 点Pの到達点の x 座標と y 座標の和が k となる文字列は, aとbを合わせて k 個, cを $n-k$ 個並べた順列である.

aまたはbが入る位置の選び方は ${}_n C_k$ 通り

2個の文字a, bから k 個を取り出す重複順列の個数は 2^k 個

$$\text{よって } F_n(k) = {}_n C_k \cdot 2^k = \frac{2^k n!}{k!(n-k)!}$$

$$(3) \quad 2 \leq k \leq n \text{ のとき } \frac{F_n(k)}{F_n(k-1)} = \frac{\frac{2^k n!}{k!(n-k)!}}{\frac{2^{k-1} n!}{(k-1)!(n-k+1)!}} = \frac{2(n-k+1)}{k}$$

$$F_n(k) \geq F_n(k-1) \text{ すなわち } \frac{F_n(k)}{F_n(k-1)} \geq 1 \text{ とすると } 2(n-k+1) \geq k$$

$$\text{よって } k \leq \frac{2(n+1)}{3}$$

$$\text{また, } \frac{F_n(k)}{F_n(k-1)} \leq 1 \text{ とすると } k \geq \frac{2(n+1)}{3}$$

$$[1] \quad n=3m \text{ (} m \text{は自然数) のとき } k \leq \frac{2(n+1)}{3} \text{ から } k \leq 2m + \frac{2}{3}$$

これを満たす最大の自然数 k は $2m$ すなわち $\frac{2}{3}n$

よって $2 \leq k \leq \frac{2}{3}n$ のとき $F_n(k) > F_n(k-1)$

$$\frac{2}{3}n + 1 \leq k \leq n \text{ のとき } F_n(k) < F_n(k-1)$$

ゆえに $F_n(1) < F_n(2) < \dots < F_n\left(\frac{2}{3}n\right) > F_n\left(\frac{2}{3}n+1\right) > \dots > F_n(n)$

よって, $F_n(k)$ が最大になる k は $\frac{2}{3}n$

$$[2] \quad n=3m-1 \text{ (} m \text{は自然数) のとき } k \leq \frac{2(n+1)}{3} \text{ から } k \leq 2m$$

これを満たす最大の自然数 k は $2m$ すなわち $\frac{2(n+1)}{3}$

(i) $n=2$ のとき $F_2(1) = F_2(2)$

よって, $F_n(k)$ が最大になる k は $1, 2$

(ii) $n \geq 3$ のとき

$$2 \leq k \leq \frac{2(n+1)}{3} - 1 \text{ で } F_n(k) > F_n(k-1)$$

$$k = \frac{2(n+1)}{3} \text{ で } F_n(k) = F_n(k-1)$$

$$\frac{2(n+1)}{3} + 1 \leq k \leq n \text{ で } F_n(k) < F_n(k-1)$$

ゆえに

$$F_n(1) < F_n(2) < \dots < F_n\left(\frac{2n-1}{3}\right) = F_n\left(\frac{2(n+1)}{3}\right) > F_n\left(\frac{2n+5}{3}\right) > \dots > F_n(n)$$

よって, $F_n(k)$ が最大になる k は $\frac{2n-1}{3}, \frac{2(n+1)}{3}$

(これは $n=2$ のときも成り立つ)

[3] $n=3m-2$ (m は自然数) のとき

$$k \leq \frac{2(n+1)}{3} \text{ から } k \leq 2m - \frac{2}{3}$$

これを満たす最大の自然数 k は $2m-1$ すなわち $\frac{2n+1}{3}$

[1]と同様に考えて, $F_n(k)$ が最大になる k は $\frac{2n+1}{3}$

以上から, 求める k は, m を自然数として

$$n=3m \text{ のとき } \frac{2}{3}n$$

$$n=3m-1 \text{ のとき } \frac{2n-1}{3}, \frac{2(n+1)}{3}$$

$$n=3m-2 \text{ のとき } \frac{2n+1}{3}$$

金沢大学入試問題2004

5 [2004 金沢大]

座標平面上で動点 P が、 x 軸の正の方向へ1進むことを文字 a で表し、 y 軸の正の方向へ1進むことを文字 b で表し、停留することを文字 c で表す。a, b, c からなる文字列が与えられたとき、点 P は原点を出発し、その文字列に従って移動する。

たとえば、長さ4の文字列 acab に対しては、点 P は原点 (0, 0) から出発して、(1, 0), (1, 0), (2, 0), (2, 1) と移動し、点 (2, 1) が到達点となる。長さ n の文字列の中で、点 P の到達点が (p, q) となる文字列の個数を $F_n(p, q)$ とする。

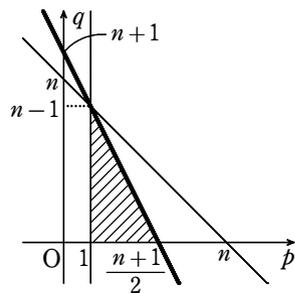
- $F_n(p, q)$ を p, q, n を用いて表せ。ただし、 n は自然数、 p, q は $p \geq 0, q \geq 0, p+q \leq n$ の範囲の整数とする。
- 自然数 n が与えられているとき、 $F_n(p-1, q) \leq F_n(p, q)$ を満たす整数 p, q の組 (p, q) ($p \geq 1, q \geq 0, p+q \leq n$) の存在する範囲を図示せよ。
また、 $F_n(p, q-1) \leq F_n(p, q)$ を満たす整数 p, q の組 (p, q) ($p \geq 0, q \geq 1, p+q \leq n$) の存在する範囲を図示せよ。
- $n+1$ が3の倍数となる自然数 n が与えられているとき、 $F_n(p, q)$ が最大になる自然数 p, q の組 (p, q) をすべて求めよ。

- a を p 個、b を q 個、c を $n-(p+q)$ 個並べる順列によって、到達点が (p, q) となる長さ n の文字列が作られる。

したがって、 $p \geq 0, q \geq 0, p+q \leq n$ として $F_n(p, q) = \frac{n!}{p!q!(n-p-q)!}$ …… ①

- ① と $F_n(p-1, q) \leq F_n(p, q)$ から $(p-1)!q!(n-p-q+1)! \geq p!q!(n-p-q)!$ したがって $n-p-q+1 \geq p$ よって $2p+q \leq n+1$

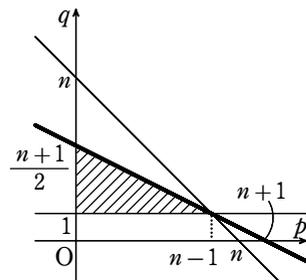
(ただし $p \geq 1, q \geq 0, p+q \leq n$)
ゆえに、整数の組 (p, q) はこの領域に含まれる格子点である。図示すると右図ようになる。ただし、境界線を含む。



また、① と $F_n(p, q-1) \leq F_n(p, q)$ から同様に $p+2q \leq n+1$

(ただし、 $p \geq 0, q \geq 1, p+q \leq n$)

ゆえに、整数の組 (p, q) はこの領域に含まれる格子点である。図示すると右図ようになる。ただし、境界線を含む。



- $F_n(p, q)$ が最大であるとする、以下の4つの条件が必要である。

$$F_n(p, q) \geq F_n(p-1, q) \quad \dots\dots ②, \quad F_n(p, q) \geq F_n(p, q-1) \quad \dots\dots ③,$$

$$F_n(p, q) \geq F_n(p+1, q) \quad \dots\dots ④, \quad F_n(p, q) \geq F_n(p, q+1) \quad \dots\dots ⑤$$

(2)の結果から、②より $2p+q \leq n+1$, ③より $p+2q \leq n+1$

また、④から $p!q!(n-p-q)! \leq (p+1)!q!(n-p-q-1)!$

すなわち $2p+q \geq n-1$

⑤から、同様に $p+2q \geq n-1$

これらを満たす (p, q) は右図の斜線部分(境界線を含む)に含まれる格子点である。すなわち、②～⑤を満たす (p, q) はこの領域に含まれていなければならない。

逆に、この領域にない点 (p_0, q_0) については、②～⑤の不等号を逆にした不等式 $F_n(p_0, q_0) < F_n(p_0-1, q_0)$

$$F_n(p_0, q_0) < F_n(p_0, q_0-1)$$

$$F_n(p_0, q_0) < F_n(p_0+1, q_0)$$

$$F_n(p_0, q_0) < F_n(p_0, q_0+1)$$

のいずれかが成り立ち、 p_0 と p, q_0 と q の大小に応じて、これを繰り返し用いることにより、 $F_n(p_0, q_0) < F_n(p, q)$ であることがわかる。

ゆえに、 (p, q) が図の領域に含まれる格子点であるとき $F_n(p, q)$ は最大となる。

$n+1$ が3の倍数であるから、 $(\frac{n+1}{3}, \frac{n+1}{3})$ は格子点である。

$$\frac{n+1}{3} - 2 < \frac{n-3}{3} < \frac{n+1}{3} - 1 < \frac{n-1}{3} < \frac{n+1}{3} < \frac{n+3}{3} < \frac{n+1}{3} + 1$$

であるから、図より、領域に含まれる格子点は

$$\left(\frac{n+1}{3}, \frac{n+1}{3}\right), \left(\frac{n+1}{3}-1, \frac{n+1}{3}\right), \left(\frac{n+1}{3}, \frac{n+1}{3}-1\right)$$

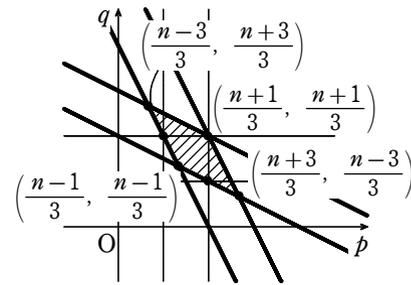
ここで、 $\frac{n+1}{3} = 1$ すなわち $n=2$ のとき、 $\frac{n+1}{3}-1=0$ であるから、 $\frac{n+1}{3}-1$ は

自然数にならない。

したがって、求める (p, q) の組は

$n=2$ のとき (1, 1)

$n>2$ のとき $(\frac{n+1}{3}, \frac{n+1}{3}), (\frac{n-2}{3}, \frac{n+1}{3}), (\frac{n+1}{3}, \frac{n-2}{3})$



6 [2004 金沢大]

座標平面上で、半径 r の2つの円 O_1, O_2 の中心をそれぞれ $(r, r), (1-r, 1-r)$ とする。円 O_1 の内部と円 O_2 の内部の少なくとも一方に属する点からなる領域を D とし、領域 D の面積を S とする。以下、 r は $0 < r \leq \frac{1}{2}$ の範囲を動くとする。

- 円 O_1 と円 O_2 が接するときの半径 r の値を求めよ。
- 円 O_1 と円 O_2 が2点 P, Q で交わるとする。 $\theta = \frac{1}{2} \angle PO_1Q$ において、半径 r と面積 S を θ を用いて表せ。
- 面積 S が最大となる半径 r の値を求めよ。

- $0 < r \leq \frac{1}{2}$ …… ① より $1-r \geq r$ であるから、 O_1, O_2 の x 座標の差 (>0) は

$$(1-r) - r = 1 - 2r$$

2点 O_1, O_2 はどちらも直線 $y=x$ 上にあるから $O_1O_2 = \sqrt{2}(1-2r)$ …… ②

円 O_1 と円 O_2 が接するとき、 $O_1O_2 = (2$ 円の半径の和) であるから

$$\sqrt{2}(1-2r) = 2r$$

これを解いて $r = \frac{2-\sqrt{2}}{2}$ (①に適する)

- 異なる2円 O_1, O_2 が2点 P, Q で交わる条件は (2円の半径の差) $< O_1O_2 < (2$ 円の半径の和)

$$\text{よって } 0 < \sqrt{2}(1-2r) < 2r$$

$$\text{ゆえに } \frac{2-\sqrt{2}}{2} < r < \frac{1}{2}$$

右の図のように線分 PQ の中点を M とすると

$$O_1M = \frac{1}{2}O_1O_2 = \frac{\sqrt{2}}{2}(1-2r)$$

また $O_1M = O_1P \cos \theta$

$$\text{よって } \frac{\sqrt{2}}{2}(1-2r) = r \cos \theta$$

$$\text{ゆえに } r = \frac{1}{2+\sqrt{2} \cos \theta} \quad \dots\dots ③$$

また $\angle PO_1Q = 2\theta$ から、領域 D の面積 S は

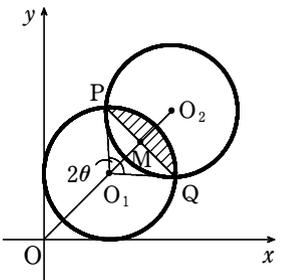
$$S = \pi r^2 + \pi r^2 - 2 \left(\frac{1}{2} r^2 \cdot 2\theta - \frac{1}{2} r^2 \sin 2\theta \right) = r^2 (2\pi - 2\theta + \sin 2\theta)$$

したがって、③から $S = \frac{2\pi - 2\theta + \sin 2\theta}{(2 + \sqrt{2} \cos \theta)^2}$ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) …… ④

- $r = \frac{1}{2}$ のとき2円 O_1, O_2 は一致して、(2)の交点 P, Q は存在しないが、このとき

の S は④において、 $\theta = \frac{\pi}{2}$ の場合として表される。

$$\frac{dS}{d\theta} = \frac{(-2 + 2\cos 2\theta)(2 + \sqrt{2} \cos \theta)^2}{(2 + \sqrt{2} \cos \theta)^4} - \frac{(2\pi - 2\theta + \sin 2\theta) \cdot 2(2 + \sqrt{2} \cos \theta) \cdot (-\sqrt{2} \sin \theta)}{(2 + \sqrt{2} \cos \theta)^4}$$



$$= \frac{(\cos 2\theta - 1)(\sqrt{2} + \cos \theta) + (2\pi - 2\theta + \sin 2\theta) \sin \theta}{(\sqrt{2} + \cos \theta)^3}$$

$0 < \theta \leq \frac{\pi}{2}$ で (分母) $= (\sqrt{2} + \cos \theta)^3 > 0$

(分子) $= \sqrt{2} \cos 2\theta + \cos 2\theta \cos \theta - \sqrt{2} - \cos \theta + 2(\pi - \theta) \sin \theta + \sin 2\theta \sin \theta$

ここで, $\cos 2\theta = 1 - 2\sin^2 \theta$, $\cos 2\theta \cos \theta + \sin 2\theta \sin \theta = \cos(2\theta - \theta) = \cos \theta$ であるから

$$\begin{aligned} \text{(分子)} &= \sqrt{2}(1 - 2\sin^2 \theta) + \cos \theta - \sqrt{2} - \cos \theta + 2(\pi - \theta) \sin \theta \\ &= -2\sqrt{2} \sin^2 \theta + 2(\pi - \theta) \sin \theta = 2(\pi - \theta - \sqrt{2} \sin \theta) \sin \theta \end{aligned}$$

ここで, $0 < \theta \leq \frac{\pi}{2}$, $0 < \sin \theta \leq 1$ から $\pi - \theta - \sqrt{2} \sin \theta \geq \frac{\pi}{2} - \sqrt{2} > 0$

したがって, $\frac{dS}{d\theta} > 0$ であるから, S は $0 < \theta \leq \frac{\pi}{2}$ で単調に増加し, $\theta = \frac{\pi}{2}$ で最大値をとる.

このとき, ③ から $r = \frac{1}{2 + \sqrt{2} \cos \frac{\pi}{2}} = \frac{1}{2}$

7 [2004 金沢大]

(1) 関数 $y = \frac{1}{e^{-x} + 1}$ のグラフの概形をかけ.

(2) $g_a(r) = \int_{-1}^r \left(\frac{1}{e^{-x} + 1} - \frac{1}{e^{a-x} + 1} \right) dx$ とする. ただし, $a > 0$ である. このとき, $\lim_{r \rightarrow \infty} g_a(r)$ を求めよ.

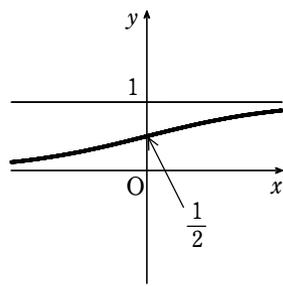
(3) $h(a) = \lim_{r \rightarrow \infty} g_a(r)$ とおくと, $\lim_{a \rightarrow \infty} \frac{h(a)}{a}$ を求めよ.

(1) $y' = \frac{e^{-x}}{(e^{-x} + 1)^2}$

常に $y' > 0$ であるから y は単調に増加する.

また $\lim_{x \rightarrow \infty} y = 1, \lim_{x \rightarrow -\infty} y = 0$

グラフは右図のようになる.



参考 凹凸を調べると以下のようになる.

$$\begin{aligned} y'' &= \frac{-e^{-x}(e^{-x} + 1)^2 - e^{-x} \cdot 2(e^{-x} + 1) \cdot (-e^{-x})}{(e^{-x} + 1)^4} \\ &= \frac{e^{-x}(e^{-x} - 1)}{(e^{-x} + 1)^3} \end{aligned}$$

よって, y の増減とグラフの凹凸は次のようになる.

x	...	0	...
y'	+	+	+
y''	+	0	-
y	↗	$\frac{1}{2}$	↘

$$\begin{aligned} (2) \quad g_a(r) &= \int_{-1}^r \left(\frac{1}{e^{-x} + 1} - \frac{1}{e^{a-x} + 1} \right) dx = \int_{-1}^r \left(\frac{e^x}{e^x + 1} - \frac{e^x}{e^x + e^a} \right) dx \\ &= \int_{-1}^r \left\{ \frac{(e^x + 1)'}{e^x + 1} - \frac{(e^x + e^a)'}{e^x + e^a} \right\} dx = \left[\log(e^x + 1) - \log(e^x + e^a) \right]_{-1}^r \\ &= \left[\log \frac{e^x + 1}{e^x + e^a} \right]_{-1}^r = \log \frac{e^r + 1}{e^r + e^a} - \log \frac{e^{-1} + 1}{e^{-1} + e^a} \end{aligned}$$

ここで $r \rightarrow \infty$ のとき $\frac{e^r + 1}{e^r + e^a} = \frac{1 + e^{-r}}{1 + e^{a-r}} \rightarrow 1$

したがって $\lim_{r \rightarrow \infty} g_a(r) = -\log \frac{e^{-1} + 1}{e^{-1} + e^a} = -\log \frac{e + 1}{e^{a+1} + 1} = \log \frac{e^{a+1} + 1}{e + 1}$

(3) (2) の結果から $h(a) = \log(e^{a+1} + 1) - \log(e + 1)$

$$\begin{aligned} \text{よって } \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{h(a)}{a} &= \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{1}{a} \log e^a (e + e^{-a}) - \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{1}{a} \log(e + 1) \\ &= \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{a}{a} + \lim_{a \rightarrow \infty} \frac{1}{a} \log(e + e^{-a}) = 1 \end{aligned}$$